

OSAKA UNIVERSITY

STATION REPORT 2010

大阪大学 学生支援ステーション
年間活動報告書 2010年度



学生支援ステーション

巻 頭 言

統括リーダー 宮崎 純一教授

大阪大学では、これまでの学生支援の機能を強化し、学内の関係部署等との横の連絡を潤滑に行うために「学生支援ステーション」を設置しました。これは教育・情報室の下に直接置かれており、重要な問題に迅速に対応できるようにしました。

この学生支援ステーションの活動拠点として、「学生支援コミュニティスペース」を設置しております。学生支援ステーションは3つのユニット、すなわち学生生活相談ユニット、進路相談ユニット、障害学生支援ユニットからなります。学生生活相談ユニットでは、対人関係や学業への不安のほか、学生生活上で遭遇するさまざまな悩みについて、相談ができる体制を整えています。進路相談ユニットでは、キャリアアドバイザーを配置し、さまざまな就職に関する相談、悩みに専門的立場から対応します。障害学生支援ユニットでは、障害や病気のある学生の皆さんの支援を担当しています。

悩み、相談などがある学生は気楽に来てみてください。



CONTENTS

1	はじめに	1
2	現状と課題	3
3	活動内容	4
4	相談件数	5
5	学内外機関等との連携	10
6	活動報告	11
7	会議報告	15
8	講演報告	16
9	教育・研究	17
10	ピア・サポート	18
11	学生支援ステーション体制	22
※	資料	26

1 | はじめに

大阪大学憲章に則り、教育研究環境の基盤を整備し、学生の人間的な成長を総合的に支えるため、教育・情報室の下に学生支援ステーションを置き、学生生活相談、進路相談、及び障害学生支援等の学生支援体制の充実を図っています。現段階においては、学生支援ステーション設置に特化した理念の策定はなされていませんが、本学では過去に、学生支援の在り方について、平成13年7月に「大阪大学における学生生活の充実について ―SPS（Student Personnel Services）向上ワーキング報告―」がまとめられました。ただし、報告からはすでに長い年月が経過していることから、現在の学生を取り巻く環境を捉えなおし、学生支援についての具体的な活動の検証を経ながら、あらためて基本理念を構築する必要が求められています。

〈大阪大学憲章〉

（平成15年3月）

大阪大学は、開学以来の国立大学という組織を離れて、国立大学法人として新たに出発する。かねて大阪の地に根づいていた懐徳堂・適塾以来の市民精神を受け継ぎつつ、「地域に生き世界に伸びる」ことをモットーとして、それぞれの時代の社会の課題に応じてきた。歴史の大きな転換点をむかえつつあるいま、大阪大学が国立大学法人として新たな出発をするこの機に臨み、将来の豊かな発展を期して、あらためて自らの基本理念を以下のとおり宣言し、大阪大学の全構成員の指針とする。

1. 世界水準の研究の遂行

大阪大学は、人間そのものや人間が構成する様々な社会、及びそれを取り巻く環境や自然のあらゆる分野について、また、それら相互の関係について、その真理を探求し、世界最先端の学術研究の場となることをめざす。

2. 高度な教育の推進

大阪大学は、次代の社会を与え、人類の理想の実現をはかる有能な人材を社会に輩出することを、その目標とする。

3. 社会への貢献

大阪大学は、教育研究活動を通じて、「地域に生き世界に伸びる」をモットーとして、社会の安寧と福祉、世界平和、人類と自然環境の調和に貢献する。

4. 学問の独立性と市民性

大阪大学は、教育研究の両面において、懐徳堂・適塾以来の自由で闊達な市民的性格と批判精神やその市民性を継承し、発展させる。学問の本質を踏まえ、いかなる権力にも権威にもおもんばかることなく、自主独立の気概のもとに展開する。

5. 基礎的研究の尊重

大阪大学は、すべての分野において基礎的・理論的な研究を重視し、世界水準の研究を自らの課題として、次世代においても研究のリーダーであることを標榜する。

6. 実学の重視

大阪大学は、実学の伝統を生かし、基礎と応用のバランスに配慮して、現実社会の要請に応える教育研究を実践する。

7. 総合性の強化

大阪大学は、総合大学としての特色を追求する。たんなる部局の集合体ではなく、人文科学・社会科学・自然科学・生命科学など、あらゆる学問分野の相互補完性を重視するとともに、新時代に適合する分野融合型の教育研究を推進する。

8. 改革の伝統の継承

大阪大学は、つねに世界に先駆けて新たな学問分野を切り拓き、それに見合った教育研究組織を生み出してきた自己革新の伝統を継承し、絶えざる組織の点検・再編に努める。

9. 人権の擁護

大阪大学は、その活動のあらゆる側面において、人種、民族、宗教、信条、貧富、社会的身分、性別、障害の有無などに関するすべての差別を排し、基本的人権を擁護する。

10. 対話の促進

大阪大学は、あらゆる意味での対話を重んじ、教職員および学生は、それぞれの立場から、また、その立場を超えて、互いに相手を尊重する。

11. 自律性の堅持

大阪大学は、直面する課題に対し、構成員間の協調をとおして、自らの意思においてその解決を図る。



学生支援ステーションのロゴマークは、3つのユニット活動、そして3つの「S」(Student Support Station)から構成されています。

それらは、大阪大学のシンボルマークであるイチヨウの葉が3つ集まったように、また、明るい色と動きで、親しみやすさが表現されています。

2 | 現状と課題

教育・情報室 学生支援ステーション・サブリーダー 太刀掛 俊之

学生支援ステーションは、大学生活でのさまざまな問題や悩みについて解決のお手伝いをするため、2010年1月に正式に立ち上がりました。従来から、学生部には、学生生活相談室・就職相談室・障害学生支援室の3つの室がありましたが、それぞれの室にまたがる相談や対応について連携を深めるとともに、各学部の何でも相談室や保健センター学生相談室などの部署とのネットワークを構築するため、3つのユニット（学生生活相談ユニット・進路相談ユニット・障害学生支援ユニット）が連携しながら、学生支援ステーションとして活動する体制を取っています。

学生支援ステーションのねらいとして、さまざまな学生に対する居場所（コミュニティ）の提供を行うため、各キャンパスにある個別の相談を行う部屋に加えて、学生の皆さんが気軽に立ち寄れる「学生支援コミュニティスペース」を2010年3月から設けています。このスペースは、学生支援ステーションの活動拠点となっており、相談がある場合には必要に応じて適切な窓口を紹介する職員（インターカー）が在席しています。また、ステーション・カフェを定期的開催することで、日々の授業や研究室の活動から離れた形で、日ごろの学生生活を気軽に話せる場をつくる試みを行っています。

これまでのステーション・カフェでは、映画鑑賞会、フィンガーペインティングとコラージュ作業からなる「ファンタジーグループ」と呼ばれる活動、豊中緑化リーダー会のボランティアの方々との園芸活動、学内の清掃、除草、園芸、駐輪整理といった業務を担当されている知的障害のある職員の皆さん（通称：エコレンジャー・グリーンレンジャー）を交えた園芸活動を行ってきました。いずれも少人数の参加ではありますが、それぞれの行事の終わりには、お茶をしながら日常生活を中心にした話題で交流を深め、概ね好評をいただいております。

もちろん、学生支援ステーションでは、ステーション・カフェのほか、皆さんの相談に対して、それぞれの教員や職員が専門分野を活かした対応を行っています。学生生活相談ユニットでは、実際にあったケースとして、「研究室に行きづらくなってしまった」、「いつの間にか不審な団体に入っていた」といった相談から、「学生生活を通じて〇〇を実現したい」といったものまで、必要に応じて関係の部署と連携しながら助言を行っています。また、進路相談ユニットでは、2011年5月から専任教員を配置するとともに、キャリア・ディベロップメント・アドバイザー（CDA）の資格を持つ職員を一定期間増員し、単なる就職支援ではなく、自分のキャリアをいかに形成するかというライフスパンの視点から、進路に関するアドバイスをを行う体制を取っています。さらに、障害学生支援ユニットでは、相談のみに留まらず、障害や慢性疾患を有する学生の全般的な支援の調整を行っています。

しかしながら、「進路選択による不安への対処」、「障害をもつ学生への就職支援」、「発達障害の有無が明確でない学生の相談」等の、各ユニットの領域で重なるケースも生じていると考えられます。そこで、さらにきめ細やかな学生支援を行うために、対応事例の分析を行いながら、各ユニット間で連携する仕組みをさらに整備していきたいと考えています。

2010年6月と12月には、保健センターの協力のもと、各学部・各研究科・各センターの何でも相談室などの業務に関わる教職員とのネットワークを構築するため、「フロントスタッフミーティング」を実施しました。初めての会合ということもあり、各現場で取り組まれている方々の顔合わせが主な目的となりましたが、今後はこれまで述べてきた取り組みや学生支援の情報を共有する場として機能するよう、学生支援ステーションのメンバーも研鑽を積んでいく予定ですので、引き続きご理解とご支援のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

3 | 活 動 内 容

1. 個別の来談者相談

2. カフェ等の開催

3. NewsLetter等の編集・発行

- ・ 学生支援ステーション「リーフレット」の編集・発行
- ・ 学生支援ステーション「ニュースレター」の編集・発行
- ・ 学生支援ステーション「年間活動報告書」の編集・発行

4. 会議・勉強会等

- ・ 月例の運営会議
- ・ 月例の学生支援ステーション・ミーティング
- ・ 勉強会
- ・ 各種研修会への参加

5. 学生支援コミュニティスペースの開放

- ・ 個別の相談を行う部屋に加え、気軽に立ち寄れる「学生支援コミュニティスペース」を開放。

6. その他

- ・ ホームページの作成と運用

4 相談件数

● 学生生活相談件数（平成22年度） ※学生生活相談員が対応したケース

相談内容	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	計	
	ついでに 学業に ついて	人間関係 交友関係	い関学教 する事職 不安迷に 進	こに係奨 に關学金 する活関	仕転学 方部の	いてて 不安に につ 現在抱え ている	いて 不安に つ 将来への 不安	勧誘 体から の	未確 認	事車 故などの に関する	つ不 いで登 て校に ついて		その他
豊 中 地 区	4月	1				2						3	
	5月			5							1	6	
	6月	2	3	1				1	1		1	9	
	7月		3				2	2				7	
	8月		2	1								3	
	9月		3	1		1	1					6	
	10月	3	3	2		1						9	
	11月		1									1	
	12月	1					2					3	
	1月												
	2月		2	1	1				1			4	
	3月		2				5					7	
	小計	7	19	11	1	2	12	3	2			6	63
	吹 田 地 区	4月			1								1
5月													
6月											1	1	
7月				1								1	
8月			1					1				2	
9月				3								3	
10月			1	2			3					6	
11月			2									2	
12月				3								3	
1月		4										4	
2月		1					1					1	
3月							1					5	
小計		5	4	10			5	1				7	32
箕 面 地 区		4月											
	5月												
	6月					1						1	
	7月												
	8月												
	9月												
	10月		1									1	
	11月												
	12月												
	1月												
	2月												
	3月												
	小計		1			1							2
	合 計	12	24	21	1	3	17	4	2			13	97

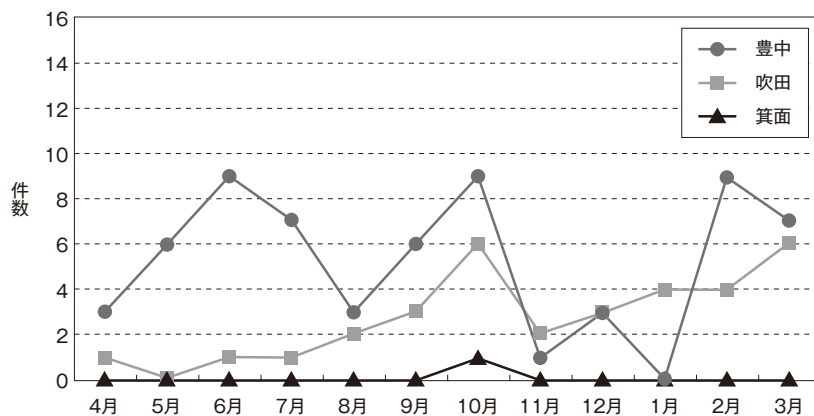


図1. 学生生活相談件数

● 進路相談件数（平成22年度）

相談内容	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	合計		
	(進め方) 就職活動の方法	求人情報全般について の問い合わせ	求人情報	特定企業・業界の 求人情報	企業の業務内容・ 処遇	Uターン就職	企業決定時の心の 迷い	公務員情報	教員情報	留学生の就職	進学・就職等に関 する迷い	履歴書・エントリー シートの記入方法	会社説明会での心 掛け	面接の受け方、注 意点	OB・OG名簿、 OB・OG訪問	就職内定、誓約書 の提出、内定辞退	報の問い合わせ	電話による就職情 報の問い合わせ		内定が獲得できな いことへの悩み	その他
豊 中 地 区	4月	8	3			1	1			1	5		8		3		14	2	46		
	5月	6				3	2				3		5				9	5	33		
	6月	16					4		1	2	9		3		2		8	4	49		
	7月	10		1							4	1	5					3	1	25	
	8月	10				1	1	1										1		14	
	9月	9					1									1		2	2	15	
	10月	9						2				2			1	1		1	1	17	
	11月	8		1								9		2	1			1		22	
	12月	6				1	2	1			3	13	2	3	2					1	34
	1月	9		1				1			4	28			1	2		1	1		48
	2月	11									2	36		3	1	1					54
	3月	6									1	31		5				1	4		48
	小計	108	3	3		1	7	13	1	1	13	140	3	34	6	10		41	21	405	
吹 田 地 区	4月	3				2	1				1		3		1		3	2	16		
	5月	1															2		3		
	6月	4				1					3		1				3	2	14		
	7月	4		1									3		1				9		
	8月	1								1									2		
	9月	4																	4		
	10月	3					1												4		
	11月	4		1					1	1	4								1	12	
	12月									2	19		1			1				23	
	1月	2								2	16		1							21	
	2月		1								13		5							19	
	3月	1							2		4		6							13	
	小計	27	1	2			3	2	3	6	60		20		3		8	5	140		
箕 面 地 区	4月								1	2		4					5		12		
	5月	4	1			5				3		1		3		1	1	1	19		
	6月	13	1			3		1	1	11	1	9		4		4	2	50			
	7月	4			1	5	1		5	10		4		5		3	12	50			
	8月																				
	9月															1			1		
	10月					1					4		1					2	2	10	
	11月	17		1	1	4	1			1	23			2	3		2	1	56		
	12月	3				3				2	51		3	1	4		1	2	70		
	1月	11				2				3	67		11	1			1	3	99		
	2月	7				1	1				67		6	4					1	87	
	3月	5					1			1	48		10	2				3	70		
	小計	64	2	1	2		24	4	1	14	286	1	49	10	20		19	27	524		
合計	199	6	6	2	1	34	19	2	4	33	486	4	103	16	33		68	53	1069		

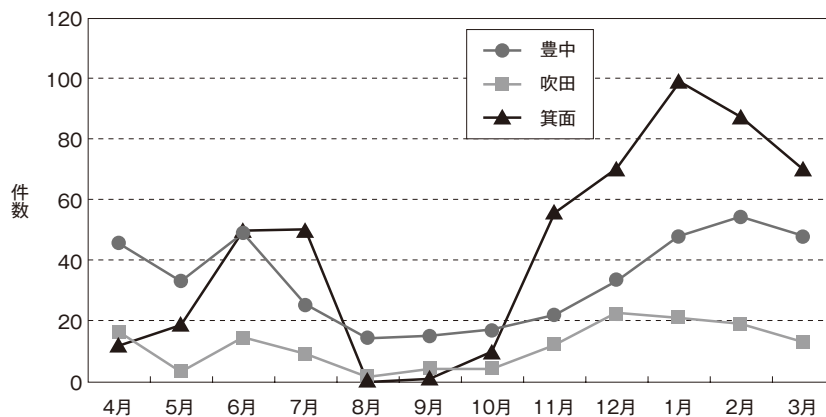


図2. 進路相談件数

障害学生支援の現状と課題

～障害学生数の推移と支援等実施件数（平成22年度）から

はじめに

本学では、すべての差別を排し基本的人権を擁護する大阪大学憲章の理念に則り、「障害を有する学生の支援に関する要項」を設け、障害学生のニーズに応じた個別支援はもとより、個別支援の土台となる全学的な支援体制の構築を推進してきた。ここでは障害学生数の推移と2010年度の支援等実施件数を概観し、本学の障害学生支援の課題を述べる。

障害学生数の推移

まず障害学生数の推移を確認しよう。本学における障害学生の在籍数は図3のように推移しており、2010年度には36名であった。ここで「障害学生」として数えられているのは在学中に大学に対して相談をしたり、配慮や支援を要望したりした学生である¹。言い換えると、ここでの障害学生とは、医学的診断により機能障害や慢性疾患を有するとされた学生数とイコールではなく、そのなかでも修学や学生生活における自分のニーズを大学に対して表出した（あるいは保護者や周囲の教職員からニーズを指摘された）学生の人数を指している。所属する学部・研究科には特に偏りはみられない。また、この図には統合前である2008年度までの大阪外国語大学の障害学生数は反映されていない。個人の特定を避けるために障害種ごとの人数は公にしておらず、図中から読み取ることはできないが、2008年度以降の傾向として指摘できるのは発達障害学生の増加である。それは次にみる2010年度の支援等実施件数にも反映されている。

2010年度の支援等実施件数

続いて2010年度の支援等実施件数を取り上げる。2010年度に障害学生支援ユニットが関わった支援等の実施件数はP9の表の通り333件であった²。前年度の965件から大きく減少しているのは主に障害学生からの支援者（ノートテイク、ノートや板書の代筆者、移動介助者、食事介助者など）の派遣の要請が少なかったためである。具体的には2009年度の754件に対し、2010年度は166件であった。

他方、増加したのは発達障害学生との相談件数である。具体的には2009年度の30件に対し、2010年度は81件であった。発達障害学生のなかには、その特性に関連して、日々の困り事を相談や支援の要請に結びつけることが難しい場合があり、個々人の状況や希望に応じて、毎月・隔週・毎週などの単位で定期的に様子の聞き取りを行い、必要と判断されれば支援につなげるようにしている。相談件数の増加の多くはこうした定期的な面談である。なお、こうした定期的な面談は、同年代の仲間関係を作ることに困難があり、キャンパス内で孤立していることが少なくない発達障害学生への居場所やコミュニケーションの機会の提供ということもあわせて企図している。

次の一歩に向けて

以上、障害学生数の推移と2010年度の支援等実施件数をごく簡単に概観し、傾向を述べた。全体として、発達障害学生支援が新たな主題として浮上しているのが近年の傾向であると言える。もちろん詳細に検討すればそれ以外にも大小さまざまな課題を指摘できるし、障害学生ひとりひとりに聞けばまた異なる問題の指摘がなされるだろう。実際の現場ではそうした細かな課題や問題への対応をおざなりにしないことが何より重要である。しかし、それでも視覚障害、聴覚障害、肢体不自由といった身体障害のある学生の支援を中心とした従来の障害学生支援からすると発達障害学生の抱える困り事への対応が増えてきた近年の障害学生支援は異なる様相に入りつつあると感じる。一例として、障害の診断に関することを挙げる。保護者などから発達障害に関連した相談があった場合、必ずしもその時点では学生本人に診断がないことが少なくない。青年期の発達障害の診断には非常に時間がかかり、診察待ちという場合もあれば、本人が受診を希望しない場合や家族からの生育歴の聞き取りなどの要件を満たすことができずに医師により診断を付けられないとされる場合もある。こうしたことは身体障害やその他の慢性疾患の学生にはあまりないことである。しかし、このときに診断を待ってから支援にかかる、というのでは困難の渦中にある学生の支援のタイミン

グを逃すことにつながりかねない。見切り発車でも支援を模索するしかないが、このようなときに「どこまでの配慮が適切か」といったことに関して依拠する枠組みが現時点では構築できていない。こうした診断に関わる問題は一例であるが、保健センターや学部・研究科相談室（支援室）などの学内の他の相談機関とも連携しながら、発達障害学生支援も包括する新たな障害学生支援を枠組みを検討することが2011年度の課題である。

1 大学への申し出といっても、自分の身近な教員（指導教員など）や他の相談室（学生相談室など）の相談員のみ障害を開示しているような場合も当然ありえるため、正確には障害学生支援ユニットが知り得た人数である。

2 学部・研究科や研究室など、障害学生支援ユニットとは関わりなくなされている支援もある。この件数はあくまで障害学生支援ユニットが関与した範囲でのものである。

● 障害学生支援ユニット支援等実施件数（平成22年度）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
視覚障害	相談／ニーズの聞き取り	3	1				1							
	周囲の教職員への働きかけ	13						10						
	アクセスの確保	3	4											
	支援者の派遣・調整	1												
	個々に適した教材等の提供													
	支援機器の設置・貸与													
	試験における配慮													
	その他	1												
聴覚障害	相談／ニーズの聞き取り	1									2	1	2	
	周囲の教職員への働きかけ	1											1	
	アクセスの確保													
	支援者の派遣・調整	9	10	15	13	5	6	8	10	9	6	2	1	
	個々に適した教材等の提供													
	支援機器の設置・貸与	2												
	試験における配慮													
	その他													
肢体不自由	相談／ニーズの聞き取り	3						1			3	3		
	周囲の教職員への働きかけ													
	アクセスの確保	1												
	支援者の派遣・調整	6	11	10	7	0	0	6	5	4	12	9	2	
	個々に適した教材等の提供													
	支援機器の設置・貸与										2	1	1	
	試験における配慮													
	その他													
病弱・虚弱	相談／ニーズの聞き取り	1									1			
	周囲の教職員への働きかけ	1						1						
	アクセスの確保	1												
	支援者の派遣・調整													
	個々に適した教材等の提供													
	支援機器の設置・貸与													
	試験における配慮													
	その他	3												
発達障害	相談／ニーズの聞き取り	5	8	2		1	4	5	6	6	10	17	10	
	周囲の教職員への働きかけ	1					1			1			3	
	アクセスの確保													
	支援者の派遣・調整													
	個々に適した教材等の提供													
	支援機器の設置・貸与													
	試験における配慮													
	その他	1												
精神障害	相談／ニーズの聞き取り等	1						1	1			1		
	周囲の教職員への働きかけ									1				
	アクセスの確保													
	支援者の派遣・調整													
	個々に適した教材等の提供													
	支援機器の設置・貸与													
	試験における配慮													
	その他	3	1				2	1		1		1	1	年間合計
合計	61	35	27	20	8	13	32	23	22	36	35	21	333件	

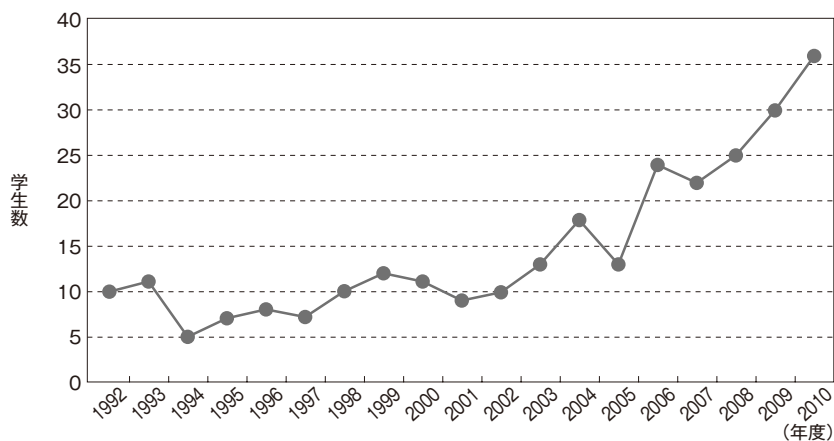


図3. 障害学生の在籍数

5 | 学内外機関等との連携

学内

- ・キャリア支援課との連携
- ・保健センターとの連携
- ・フロントスタッフ・ミーティング（各学部・研究科・相談室）との連携
- ・キャンパスデザイン室との連携

学外

- ・豊中緑化リーダー会
- ・市民活動フォーラムみのお

他大学への見学（平成21年度・22年度）

- ・香川大学キャリア支援センター 平成21年9月10日（木）
- ・名古屋大学学生相談総合センター 平成21年9月11日（金）
- ・岡山大学学生支援センター 平成21年9月24日（木）
- ・甲南大学学生相談室 平成22年4月22日（木）
- ・神戸大学キャリアセンター 平成23年2月17日（木）
- ・甲南大学キャリアセンター 平成23年2月17日（木）

他大学等からの来訪（平成22年度）

- ・北海道大学 平成22年11月8日（月） ほか

会議等への出席（平成22年度）

- ・DO-IT Japan 一般公開シンポジウム 平成22年8月7日（土）
- ・関西障害学生修学支援担当者懇談会 平成22年8月24日（火）
- ・障害学生修学支援地域連携ブロック別シンポジウム 平成22年8月26日（木）
- ・障害学生修学支援事例研究会 平成22年8月30日（月）
- ・第6回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム 平成22年11月14日（日）
- ・発達障害学生支援合同研究協議会 平成22年11月14日（日）～15日（月）
- ・メンタルヘルス研究協議会 平成22年11月16日（火）～17日（水）
- ・学生支援シンポジウム「ピア・サポートのダイナミズムとインパクト」 平成22年12月13日（月）
- ・東京大学バリアフリーシンポジウム「バリアフリーの未来を拓く」 平成22年12月18日（土）
- ・発達障害学生支援シンポジウム「現代青年期の発達課題にどう向きあうか：社会参加に向けて」 平成23年2月5日（土）
- ・関西障害学生修学支援担当者懇談会 平成23年3月2日（水）

社会的活動（平成22年度）

- ・障害学生の就業力に関する調査研究専門部会委員 日本学生支援機構
- ・関西障害学生修学支援担当者懇談会 世話人

6 | 活動報告

- 1月 学生支援ステーションを設置
- 2月 (春季休業)
- 3月 学生支援コミュニティスペースOPEN
- 4月 Station創刊号を発行
- 5月 第1回Station Caféを開催(映画上映会)
第2回Station Caféを開催(園芸体験)
進路相談体制を強化(CDAを増員)
Station 2号を発行
- 6月 第3回Station Caféを開催(ファンタジーグループ)
第4回Station Caféを開催(園芸体験)
第1回フロントスタッフ・ミーティングを開催
勉強会を開催
Station 3号を発行
- 7月 第4回-②Station Caféを開催(園芸体験)
第5回Station Caféを開催(園芸体験withエコ・レンジャー)
JICA青年研修・アフリカ英語圏・障害者支援制度コースに協力/講演会を開催
Station 4号を発行
- 8月 (夏季休業)
- 9月 (夏季休業)
- 10月 手話講習会を開催(～1月まで)
Station 5号を発行
- 11月 手話講習会を開催(～1月まで)
第6回Station Caféを開催(園芸体験)
第8回Station Caféを開催(園芸体験)
Station 6号を発行
- 12月 手話講習会を開催(～1月まで)
第7回Station Caféを開催(ストレスマネジメントのコツ)
Station 7号を発行
- 1月 第2回フロントスタッフ・ミーティング及び講演会「大阪大学のメンタルヘルス」を開催
手話講習会を開催
Station 8号を発行
- 2月 Station 9号を発行
- 3月 障害のある方向け会社説明会を開催

○Station Café

学生支援ステーションでは、クラブやサークル活動、あるいは友人の輪に積極的に入りにくい学生、所属や居場所がなく大学に来づらくなっている学生、学生支援に興味を持っている学生など様々な学生が交流できる場の提供を通して、学生の相互交流をめざした場づくりを積極的に行っていこうとしています。

Station Caféは、さまざまな学生が交流できる機会や場づくりと、今年度から新しくはじまった「学生支援ステーション」について、その存在や活動内容を知ってもらい、悩みや問題を抱えた学生が気軽に学生支援ステーションを利用できるようなきっかけづくりでもあります。

◆第1回 「映画とCaféでつながろう」

日時：平成22年5月20日（木） 13：30～

場所：学生支援コミュニティスペース

作品：「亀も空を飛ぶ」

映画の上映後にcaféタイムを設け、「タイトルからはガメラ的なモノを想像した」、「内容がアメリカ軍のイラク侵攻を背景とした、ニュース映像では知ることのできないイラクの現状を映し出した作品であったので、タイトルと内容とのギャップが大きかった」といった感想を話し合いました。



◆第2回 「園芸体験～初夏の種まき編」

日時：平成22年5月27日（木） 13：30～

場所：学生支援コミュニティスペース

豊中緑化リーダー会のボランティアの協力を得て、百日草・日日草・きんれんか・枝豆の種まきをしました。豊中緑化リーダー会の方々に指導をいただき、土に触れながら世代を超えた交流が出来たと大変好評でした。



◆第3回 「ファンタジーグループ」

【1日目】

日時：平成22年6月28日（月） 13：30～

場所：箕面キャンパス福利棟2階会議室1

第1日目は、素手でフィンガーペインティングを行いました。この作品が、次回、どう変化するのか？

【2日目】

日時：平成22年7月5日（月） 13：30～

場所：箕面キャンパス福利棟2階会議室1

第2日目は、フィンガーペインティング完成作品にハサミを入れ、コラージュとして新たな作品を生み出しました。



◆第4回 「園芸体験～苗の植えかえ編～」

日時：平成22年6月11日（金） 17：00～

場所：学生支援コミュニティスペース

豊中緑化リーダー会のボランティアの協力を得て、5月27日に種まきをした百日草・きんれんか・枝豆の苗を植えかえました。



◆第5回 「大学に花を咲かせよう！ with エコ・レンジャー」

日時：平成22年7月22日（木） 14：40～

場所：CMCプラザ（豊中サイバーメディアセンター学生広場）

障害学生支援ユニットでは、豊中緑化リーダー会の皆さんに準備の段階からご協力をいただいて、エコ・レンジャー（多様な人材活用推進支援室）と一緒にCMCプラザの花壇に日日草とコリウスの植え付けを行いました。



◆第6回 「園芸体験～できた枝豆を試食しよう！編～」

日時：平成22年11月18日（木） 16：20～

場所：学生支援コミュニティスペース

夏のはじめにまいた枝豆に立派な実がなりました。たくさんのご協力をいただいた豊中緑化リーダー会の皆さんと、これまでの園芸体験に参加してくださった学生の皆さんと一緒に、枝豆の試食会を行いました。

◆第7回 「ストレスマネジメントのコツ ～認知行動療法的アプローチを用いて～」

日時：平成22年12月3日（金）及び17日（金） 13：30～

場所：学生支援コミュニティスペース

心理学のアプローチを用いて、日々のストレスや悩みごと等と上手につき合うコツを皆で一緒に練習するというワークショップ形式で行いました。参加学生からは「自分を見直し、理想の自分に向かって目標を立てられた」等の感想が寄せられ、大変好評でした。

※その後、参加メンバーでまた集まろうという声があり、後日、フォローアップを行いました。



◆第8回 「園芸体験～花苗の植えつけ編～」

日時：平成22年11月24日（水） 14：00～

場所：屋上庭園（学生交流棟）& CMCプラザ（豊中サイバーメディアセンター学生広場）

豊中緑化リーダー会の皆さんの協力を得て、ストック・クリサンセマム・ピオラ等の苗を植え付けました。



○手話講習会（初心者向け）

日時：平成22年10月18日（月）～平成23年1月31日（月）全13回

場所：大学教育実践センター教育研究棟 I

スチューデント・commons セミナー室2

障害学生支援ユニットでは、手話に接したことがない学生向けに、全13回の手話講習会を開催しました。



○ワークショップ

◆「若者のための社会とワタシの関係学」

日時：平成23年2月21日（月） 17：30

場所：大学教育実践センター教育研究棟 I

スチューデント・commons 開放型セミナー室

自ら内にある社会への問題意識を振り返り、活発な意見交換を行うとともに、「学び、活動的に暮らし、働く」社会参加の意義と、より多くのつながりの中で自己が位置付けられることの豊かさについて、参加者による共有がなされました。



○勉強会

日時：平成22年6月23日（水） 15：00～

場所：学生支援コミュニティスペース

講師：関西こども文化協会事務局 中村有美氏

児童や学生の「ひきこもり」に関するお話を中心にプレゼンしていただき、その後、意見交換会を行いました。

7 | 会議報告

○運営会議

- 第1回開催 平成22年2月3日(水) 10:00~
- 第2回開催 平成22年3月25日(木) 10:00~
- 第3回開催 平成22年4月27日(火) 13:00~
- 第4回開催 平成22年5月26日(水) 10:30~
- 第5回開催 平成22年6月23日(水) 10:30~
- 第6回開催 平成22年7月28日(水) 10:30~
- 第7回開催 平成22年10月27日(水) 10:30~
- 第8回開催 平成22年12月1日(水) 9:30~
- 第9回開催 平成22年12月22日(水) 10:30~
- 第10回開催 平成23年1月26日(水) 9:30~
- 第11回開催 平成23年2月23日(水) 10:30~
- 第12回開催 平成23年3月23日(水) 10:30~

○フロントスタッフ・ミーティング

- 第1回開催 平成22年6月23日(木) 11:00~
- 第2回開催 平成23年1月26日(水) 10:00~
(講演会同時開催 11:00~)

~学生支援の充実へ 全学的な連携と情報共有を推進~

障害を有する学生への対応や進路に関する相談などに挙げられる学生支援の多様化、複数の学部にもたがるトラブル事案が発生しています。このミーティングは、こうした現状を鑑み、各学部や研究科等における相談室等の現場レベルで対応にあたる教職員(フロントスタッフ)が相互に情報を共有することで、学生生活上の問題の予防や、問題発生時の対応を迅速化することを目的としています。

保健センター学生相談室の協力を得ながら、今年度から行っ

ているもので、第2回では意見交換とともに、「大阪大学のメンタルヘルス」(保健センター学生相談室・井上洋一教授)、「大阪大学におけるメンタルヘルスの現状と課題—不登校事例を中心に—」(保健センター学生相談室・石金直美准教授)と題した講演会を併せて実施しました。

今後も定期的に、フロントスタッフ・ミーティングを実施し、全学的・横断的な連携と情報等の共有を進めることとします。



○学生支援ステーション・ミーティング

- | | | | | | |
|-------|----------------|--------|--------|----------------|--------|
| 第1回開催 | 平成21年12月17日(木) | 10:30~ | 第8回開催 | 平成22年7月21日(水) | 13:00~ |
| 第2回開催 | 平成22年1月28日(木) | 15:00~ | 第9回開催 | 平成22年10月20日(水) | 13:00~ |
| 第3回開催 | 平成22年2月24日(水) | 13:00~ | 第10回開催 | 平成22年11月18日(木) | 12:00~ |
| 第4回開催 | 平成22年3月16日(火) | 14:00~ | 第11回開催 | 平成22年12月15日(水) | 13:00~ |
| 第5回開催 | 平成22年4月19日(月) | 13:00~ | 第12回開催 | 平成23年1月19日(水) | 10:00~ |
| 第6回開催 | 平成22年5月24日(月) | 10:00~ | 第13回開催 | 平成23年2月16日(水) | 13:00~ |
| 第7回開催 | 平成22年6月21日(月) | 14:00~ | 第14回開催 | 平成23年3月16日(水) | 13:00~ |

8 | 講演報告

○「JICA青年研修・アフリカ英語圏・障害者支援制度コース」に協力／講演会開催

日時：平成22年7月16日（金） 14：00～

場所：大学教育実践センター教育研究棟 I

スチューデント・commons セミナー室2

講師：学生支援ステーション／障害学生支援ユニット 松原 崇助教

題目：Support for Students with Disabilities:

A Case of Osaka University

アフリカ11カ国から、政府組織や民間のケアホーム等において障害学生支援に関わる23名の方が本学に視察に来られました。松原講師による講演のあと、活発な意見交換が行われました。



○大学における障害学生支援 （障害学生進路相談会2010）に協力

日時：平成22年11月6日（土） 13：00～16：00

場所：大阪ドーンセンター

講師：学生支援ステーション／障害学生支援ユニット 松原 崇助教

題目：「大学における障害学生支援」

主催：株式会社ミライロ

○第13回フィジカルヘルス・フォーラム（PHF）開催

日時：平成23年3月17日（木）・18日（金）

場所：医学部銀杏会館 阪急電鉄・三和銀行ホール

講師：学生支援ステーション／学生生活相談ユニット 太刀掛俊之准教授

題目：「学生支援におけるリスク管理—キャンパスカートの予防から—」

講師：学生支援ステーション／障害学生支援ユニット 松原 崇助教

題目：「障害や慢性疾患のある学生への修学支援：大阪大学の事例から」

9 | 教育・研究

【担当講義】

○全学必修特別講義

科目名：「大学生生活環境論—安全なキャンパスライフのために」

担当教員：大垣一成、太刀掛俊之、山本 仁、大和谷厚

1年生を対象とした講義。キャンパスライフでの安全を守るために重要な点についての必修特別講義。

○現代教養科目

科目名：「現代の環境を考える（地球環境と安全・安心の意識）」

単位数：2

担当教員：山本 仁、富田賢吾、太刀掛俊之、齊藤 敬

安全で快適な生活をおくするために、私たちができることは何だろうか？そもそも「安全で快適」とはどのような状況をさすのであろうか？今後社会の構成員としてリーダー的役割を担う人間として、日常生活レベルから地球レベルに至るまで、幅広く安全と環境に係る問題に取り組む視点を養う。

○先端教育科目

科目名：「大学生活と社会」

単位数：2

担当教員：太刀掛俊之、山本 仁、大和谷厚、大垣一成

主にカルト問題を例に挙げながら、社会と大学に重なる諸問題を通じて、個人・集団・社会におけるリスクを自ら俯瞰する能力を身につけること、大学での学び（正課や課外活動等）が市民社会と密接な関係にあることを理解することを目標とする。

○基礎セミナー

科目名：「障害と社会を考える（障害学への招待）」

単位数：2

担当教員：松原 崇

障害のある人たちの生活や経験を知ることによって見えてくる自分や社会の姿について考えを深め、そのことを通じて、「障害と社会」の学問である障害学への入門を目指す。

○市民社会におけるリーダーシップ養成支援

（平成19年度文部科学省選定 新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム）

講義名：「社会と安全」

担当教員：太刀掛俊之

講義名：「障害者支援は誰のため？」

担当教員：松原 崇

【研究プロジェクト】

科学研究費補助金若手研究（B）「高等教育機関における安全教育プログラムの体系化と効果測定」（2010～2012年度）

代表者：太刀掛俊之

【著書・論文等】

太刀掛俊之「カルト予防と学生支援—大阪大学の事例から—」（2010.9）大学と学生

松原 崇「異なる現実を架橋するツールとしての地図作り：大学キャンパスにおける障害者アクセスマップ作りの事例から」（採録決定）日本ボランティア学会学会誌

10 | ピア・サポート

○ピア・サポーター（学生生活相談員）

速見 佳子

（相談員：吹田担当）

安達 友紀

（相談員：豊中担当）

和田奈緒子

（相談員：豊中担当）

筒井 優介

（相談員：箕面担当）

【NewsLetter「ステーション Station」の編集】

学生支援ステーションの活動等を広く知っていただくため、ピア・サポーター（相談員）がニュースレターを編集し発行しています。

- ・ 創刊号（2010/4/23号） NewsLetter（編集／安達相談員）
- ・ 2号（2010/5/28号） NewsLetter No.2（編集／安達相談員）
- ・ 3号（2010/6/25号） NewsLetter No.3（編集／安達相談員）
- ・ 4号（2010/7/23号） NewsLetter No.4（編集／和田相談員）
- ・ 5号（2010/10/22号） NewsLetter No.5（編集／和田相談員）
- ・ 6号（2010/11/26号） NewsLetter No.6（編集／和田相談員）
- ・ 7号（2010/12/24号） NewsLetter No.7（編集／筒井相談員）
- ・ 8号（2011/1/28号） NewsLetter No.8（編集／筒井相談員）
- ・ 9号（2011/2/25号） NewsLetter No.9（編集／筒井相談員）

【イベント（Station Café）の企画】

学生支援ステーションでは、さまざまな学生が交流できる機会や場づくりを積極的に行っています。そのひとつとして、ピア・サポーター（相談員）が「Station Café」を企画しています。

- ◆Station Café 第1回「映画とCafé でつながろう！」（企画／和田相談員）
- ◆Station Café 第2回「園芸体験～初夏の種まき編～」（企画／安達相談員）
- ◆Station Café 第3回「イメージであそぶ～指で、掌で、自由に絵を描いてみませんか？」（企画／筒井相談員）
- ◆Station Café 第4回「園芸体験～発芽した苗を植えかえよう！編～」（企画／安達相談員）
- ◆Station Café 第5回「大学に花を咲かせよう！」（企画／障害学生支援ユニット）
- ◆Station Café 第6回「園芸体験～できた枝豆を試食しよう！編～」（企画／安達相談員）
- ◆Station Café 第7回「ストレスマネジメントのコツ～認知行動療法的アプローチを用いて～」（企画／和田相談員）
- ◆Station Café 第8回「園芸体験～花苗の植えつけ編～」（企画／安達相談員）

ピア・サポーター（相談員）に、この1年間の 「学生支援ステーション」の活動をふりかえってもらいました

この一年の学生支援ステーションの活動を振り返って

和田 奈緒子

豊中キャンパスで学生生活相談を担当しております和田と申します。学生支援ステーションという新しい形になって1年目が終わろうとしています。相談員という立場からこの1年の活動を振り返ってみたいと思います。

相談員としての仕事では、学生さんが個別に来られる相談に対応することをベースとして、毎月のニュースレターを発行したり、Station caféの企画を提案したりしてきました。私自身は、映画の上映会や「ストレスマネジメントのコツ」のワークショップを担当しました。これらの活動は、学生支援ステーションをより多くの学生さんに知ってもらい、ここが気軽に立ち寄れる場となることを目指したものです。

実際、相談では、手続きや書類提出をどこで行えばいいかわからない、不審な団体に勧誘されたといった特に新入生に多く見られるものから、転部したい、大学に行けていない、就活が思ったようにできないなど“大学生らしい”相談、さらにはハラスメントを受けた、人の目が怖くて外出できないなど少し深刻な相談まで幅広く経験しました。このような相談に対し、担当の先生方や学生センターの職員さんを通して、各部局と連携しながら解決にあたりました。

以上の活動の振り返りから、この1年の成果として、各関係機関と連携をとりつつ進めていくという形がやんわりと見えてきたこと、ニュースレターやStation caféの開催など、こちらから発信する機会が増えたことが挙げられると思います。一方で、Station caféに参加された学生さんから、「周りの友達はこの企画があることをほとんど知らない」という意見をいただくなど反省点も見られました。学生支援ステーションがどのような場であるのかをより明確に打ち出したり、活動に関する情報提供の仕方を工夫したりするなどして、困ったときに気軽に立ち寄れる場になるよう、学生支援ステーションに関わるスタッフ全員で2年目に向けて模索していく必要があると思います。

最後に私個人としては、普段あまり接することのない大学に携わっている様々な方と関わることができたことが大きな収穫でした。また、最初に話をきく相談員という立場として、それが現実的な問題であっても、学生さん一人一人の思いや葛藤を見逃さないようにしたいと改めて感じる事ができました。

学生支援ステーションは、まだまだ誕生したばかりです。皆様からのご意見やアイデアをもとに試行錯誤しながら一緒に新しい学生支援の形を作っていけたらと思っています。

この一年の学生支援ステーションの活動を振り返って

安達 友紀

こんにちは。豊中キャンパスで学生生活相談員として勤務している安達友紀といたします。「はじめまして」という方のほうがずいぶん多いと思いますが…。さて、学生支援ステーションが立ちあがって1年が経過しました。1年間相談員として活動してきて感じたこと、考えたことを少し書いてみたいと思います。

私自身は学生支援ステーションが立ちあがる前から学生生活相談員として、豊中キャンパスで勤務していたのですが、基本的に相談室に1人で待機し、時折訪ねてこられる学生の面談を行っているという感じでした。まさに、個人による「点」の活動といった趣でした。

学生支援ステーションが立ちあがってからは、個別の相談に限らず、園芸体験や映画上映会など様々な企画を立ち上げたり、ニュースレターを通して学生支援ステーションの情報を発信したり、また、学生生活相談以外の他のユニットといっしょに学生の支援にあたりたりと、活動の幅が「点」から「線」、そして「面」へと広がっていくのを感じています。学生支援“ステーション”というだけあって、今いる場所からまた別の、次の場所へと向かうための中継点として、徐々に駅の形が整ってきたのかなあと個人的には思っています。

しかし、駅の形はできてきましたが、立ち寄ってくれる列車がまだまだ少ないのが現状です。引き続きふらっと立ち寄れるような心地よい場所づくりに取り組みながら、学生支援ステーションで何ができるのか、どういうための場所なのかというメッセージを伝えていきたいと感じています。実際に学生支援ステーションに来られた学生とのやり取りの中から、よりよい学生支援ステーションの活用法を見つけていきたいところです。

今後も大阪大学の学生1人1人にとって、学生支援ステーションが大学内にある資源としてどんどん活用されるように活動していきたいと思います。興味を持たれた方は豊中キャンパス学生交流棟2階奥の学生支援コミュニティスペースにお立ち寄りください。私たちスタッフがお迎えます。

踏み出す勇気 ～相談業務を振り返って～

筒井 優介

こんにちは。学生生活相談員の筒井です。去年度の相談業務を振り返ってということなのですが、相談員として今感じていることを少しお話できればと思います。

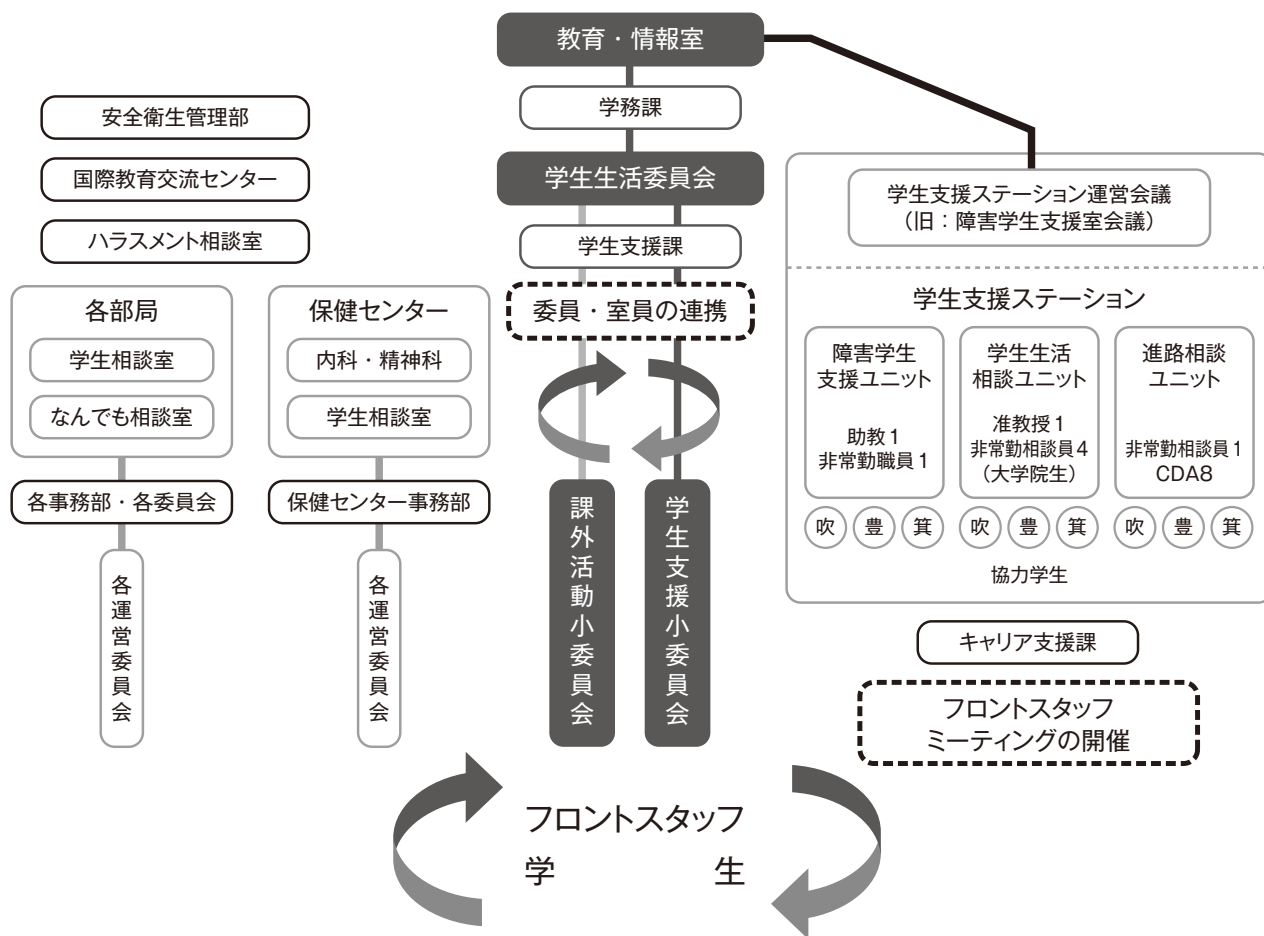
学生支援ステーションには、実に様々なことで学生さんがやって来られます。休学や退学を含めた進路の問題、研究室やサークル、バイトでの人間関係に関すること、大学、教員に対する不満など挙げればきりがなく、学生さん個人が抱える悩みや問題は、まさに学生さんの数だけあるといえるかもしれません。内容についても非常に深刻で込み入ったものから、一見するとたわいもないようなことまで、非常に幅広いものがあると言えるでしょう。そのような様々な学生さんとお会いする中で、まず初めに感じるのは、「本当によく来られました」という思いです。初めて相談室にやって来られる学生さんが、まず最初に語り出されるのは、たいてい「こんなこと聞いてもらってもいいんですか」という言葉です。「こんなことでも聞いてもらえるんでしょうか」と遠慮がちに話されること。自分ではたわいもないほんの些細なこと。取り立てて気にするようなことではないと思うようなこと。一見すると大したことのないように思われること。このようなことを他人に話したり相談したりすることは、不思議なことで、なぜだかとても憚られるものです。「こんなこと話してもいいのか」「自分が大げさなだけではないのか」「こんなこと話したら相手はどう思うだろう」。普段は何でも話しているはずの友人や家族だからこそ、ますますためらってしまうのかもしれない。また、「大したことないや」とあまり考えないようにしたり、見ないようにしてしまうということもありえるでしょう。そのような対処の仕方一つであるのかもしれませんが、けれど思うのです。「見ないようにしてしまった自分の中のその気持ちはどうなるのだろう」と。

このような様々な戸惑いがある中で、相談室の扉を叩かれたんだということに思いを馳せると、先に述べた言葉が自然と心に浮かぶのです。「あー、本当によくやって来られた」。どうでもいいかもしれないちっぽけなことを他人に話す勇気。相談室の扉を叩く勇気。一歩踏み出す勇気。このような勇気が生まれてくるのがどれだけ困難であったことを想像すると、感銘を受けざるを得ません。学生支援ステーションは、学生さんたちのこのような勇気によって、成り立っているのだとも思います。

思っていることを気ままに書き散らしてしまいましたが、相談員である僕自身の勇気ももちろん問われているということは言うまでもありません。そのあたりのことはまた別の機会にお話できたらと思います。

11 | 学生支援ステーション体制

○組織図 (2011年3月31日現在)



○運営会議委員

統括リーダー	宮崎 純一	教授 (大学院医学系研究科・医学部)
サブリーダー	太刀掛俊之	准教授 (教育・情報室)
委員	荒井 栄司	教授 (大学院工学研究科・工学部)
〃	守山 敏樹	教授 (保健センター)
〃	井上 洋一	教授 (保健センター学生相談室)
〃	松原 崇	助教 (教育・情報室)
〃	脇 成吾	課長 (学生部)
〃	木多 道宏	准教授 (キャンパスデザイン室)

○スタッフ

学生生活相談ユニット

太刀掛俊之	准教授
安達 友紀	相談員 (ピア・サポーター)
筒井 優介	〃 (〃)
速見 佳子	〃 (〃)
和田奈緒子	〃 (〃)

進路相談ユニット

川村 好秀 相談員
岩崎 飛鳥 CDA (キャリアアドバイザー)
小原 和子 ♪ (♪)
新居田久美子 ♪ (♪)
西田奈穂子 ♪ (♪)
西林 尚美 ♪ (♪)
野村 文子 ♪ (♪)
森田江里子 ♪ (♪)
吉田 珠江 ♪ (♪)

障害学生支援ユニット

松原 崇 助教
濱田 環 コーディネーター (平成22年10月まで)
溝渕美恵子 コーディネーター (平成22年11月から)

学生支援コミュニティスペース

知念 靖代 インターカー



進路相談ユニットの室内▶



豊中地区学生交流棟▶

○学生支援コミュニティスペースの取り組み

平成22年3月1日から豊中地区学生交流棟2階に学生支援コミュニティスペースを開設しました。開室時間は平日の正午から17時まで（火曜日を除く、水曜日は正午から16時まで）、スペースの利用受付や各種の相談に応じた案内を行うインターカーが常駐しています。また、水曜・金曜日は学生生活相談員（臨床心理学を学んでいる大学院生／ピア・サポーター）がおり、日常生活や大学生活のことについて、気軽に話ができる環境を整備しています。

学生支援ステーションは、コミュニティスペースを中心に、学生・教員・職員の三者が協力して、次の3つの機能を果たすことを目指しています。はじめに、①ピア・サポートやグループ活動を通して、学生のみなさんにコミュニティ（居場所）そのものを提供する機能です。自分自身の大学生活やキャリアを考えるきっかけとなる書籍を配架するとともに、映画の上映やフィンガーペインティング等の行事を予定しています。また、②必要に応じて学内の相談室と連携し、コミュニティの再編と創造を行う機能です。各学部・研究科等にあるなんでも相談室や学生相談室の担当スタッフとのミーティングを定期的実施し、学内にあるコミュニティの現状について情報の共有を進めていきます。さらに、③学内外のコミュニティどうしのつながりを促すインタフェイスとしての機能です。地域・ボランティア活動等に携わる団体に関する情報の提供や相互の交流を促し、ネットワークを広げるための拠点としてなるべく努めていきます。

「なんだかやる気がわからない」「人間関係がわずらわしくなってきた」「授業がつまらない」といったものだけでなく、「授業のほかにも何かしてみたいけれど、モヤモヤしていて困っている」「自分が打ち込める活動のきっかけがほしい」といったポジティブなものまで、気軽に立ち寄れて話ができるオープンな環境を準備しています。コミュニティスペースの隣には、話の内容に応じた相談室（個室）が併設してありますので、個別の相談も可能です。みなさまのご理解と御協力をいただき、学生支援の層を増していくとともに、学生自身が学生支援に携わることを通じて、自らが生長する機会を創出していく予定です。ぜひ、いちど学生支援コミュニティスペースへお立ち寄りください。

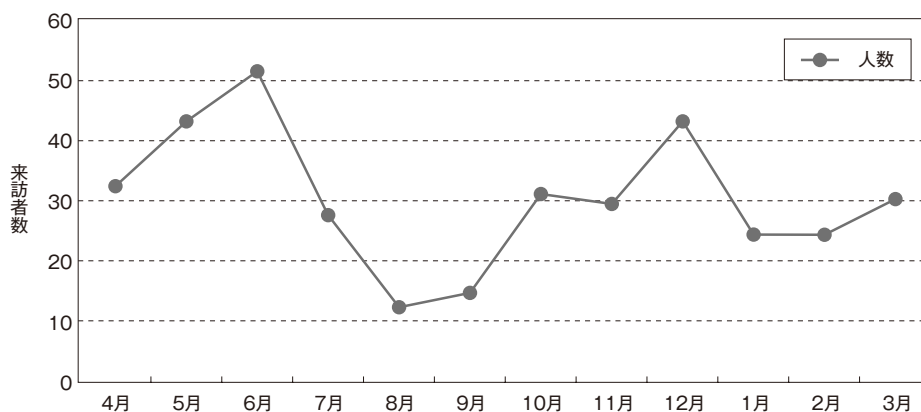


図4. 年間来訪者数について（平成22年度）



◀学生支援コミュニティスペース

スタッフからひとこと

● 学生生活相談ユニット

サブリーダー 太刀掛 俊之 准教授

学生生活相談ユニットでは、対人関係や学業への不安のほか、学生生活上で遭遇する、さまざまな悩み（偽装勧誘・消費者トラブル）について、何でも話ができる体制を整えています。また、大学に入って何か始めてみたいけれど、大学ではどんなことができるんだろう？といった話も大歓迎です。ぜひ、気軽にお立ち寄りください。

● 進路相談ユニット

川村 好秀 相談員

就職活動ではエントリーシートなどの書類がうまく書けない、面接が苦手、など様々な壁にぶつかります。希望の内定を勝ち取るには一つ一つ乗り越えていくことが大切です。一人で悩まないで、相談室を賢く活用して下さい。納得できる就職活動になるよう全力でお手伝いしたいと思っています。

● 障害学生支援ユニット

松原 崇 助教

障害学生支援室の創設時（2002年）から、大阪大学で学ぶ障害や病気のある学生の皆さんの支援に関わらせていただいています。

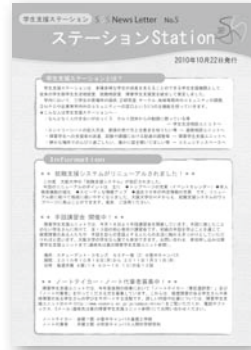
「こんなこと相談してもいいのかな？」なんて思わずに、まずは気軽に足を運んでみてくださいね。

資料

○ステーションNewsLetter「Station」

学生支援ステーションの活動をもっと広く知っていただくため、ピア・サポーター（学生生活相談員）がNewsLetter「ステーション Station」を作成し、発行しています。

- ・ 創刊号 (2010/4/23) 編集/安達相談員
- ・ 2号 (2010/5/28) 編集/安達相談員
- ・ 3号 (2010/6/25) 編集/安達相談員
- ・ 4号 (2010/7/23) 編集/和田相談員
- ・ 5号 (2010/10/22) 編集/和田相談員
- ・ 6号 (2010/11/26) 編集/和田相談員
- ・ 7号 (2010/12/24) 編集/筒井相談員
- ・ 8号 (2011/1/28) 編集/筒井相談員
- ・ 9号 (2011/2/25) 編集/筒井相談員



URL ● http://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/student/support_st

○Café開催案内チラシ

学生支援ステーションでは、さまざまな学生が交流できる機会や場づくりを積極的に行っています。そのひとつとして、ピア・サポーター（学生生活相談員）が「Station Café」を企画しています。

- ◆第1回「映画とCafeでつながろう！」（企画／和田相談員）
- ◆第2回「園芸体験～初夏の種まき編～」（企画／安達相談員）
- ◆第3回「イメージであそぶ～指で、掌で、自由に絵を描いてみませんか？」（企画／筒井相談員）
- ◆第4回「園芸体験～発芽した苗を植えかえよう！編～」（企画／安達相談員）
- ◆第5回「大学に花を咲かせよう！」（企画／障害学生支援ユニット）
- ◆第6回「園芸体験～できた枝豆を試食しよう！編～」（企画／安達相談員）
- ◆第7回「ストレスマネジメントのコツ～認知行動療法的アプローチを用いて～」（企画／和田相談員）
- ◆第8回「園芸体験～花苗の植えつけ編～」（企画／安達相談員）



URL ● http://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/student/support_st

○大阪大学学生支援ステーション設置要項

平成22年1月12日 教育・情報室会議承認

平成22年1月15日 総長裁定

(設置)

第1条 大阪大学教育・情報室の下に、学生生活相談、進路相談及び障害学生支援（以下「学生支援等」という。）の体制を充実させ、学生の人間的な成長を総合的に支えるため、大阪大学学生支援ステーション（以下「学生支援ステーション」という。）を置く。

(業務)

第2条 学生支援ステーションは、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 学生生活上の悩み及び問題に関する相談への対応
- (2) 学生の進路・就職に関する相談への対応
- (3) 障害又は慢性疾患を有する学生に関する相談への対応及び支援
- (4) 学生支援等に関わる調査及び研究
- (5) 学生・教職員に対する学生支援等のための教育及び啓発
- (6) 前各号に掲げるもののほか、学生支援等に関し必要な事項

(ユニット)

第3条 前条各号の業務を行うため、学生支援ステーションに次のユニットを置く。

学生生活相談ユニット

進路相談ユニット

障害学生支援ユニット

2 各ユニットは、業務を遂行するに当たり、他のユニットと密接な連携を図るものとする。

(学生支援ステーションの構成)

第4条 学生支援ステーションに、統括リーダー、サブリーダー及び各ユニット担当者を置く。

- 2 統括リーダーは、教育・情報室の室員のうちから教育・情報室長が指名する者をもって充てる。
- 3 統括リーダーは、学生支援ステーションの業務を統括する。
- 4 サブリーダーは、学生支援ステーションの各ユニット担当者のうちから統括リーダーが指名する者をもって充てる。
- 5 サブリーダーは、統括リーダーを補佐し、統括リーダーに支障のあるときは、その職務を代行する。
- 6 各ユニット担当者は、大阪大学の専任教員その他必要な職員で構成する。
- 7 各ユニット担当者は、統括リーダーの命に従い、学生支援ステーションの業務に従事する。

(学生支援ステーション運営会議)

第5条 学生支援ステーションに、学生支援ステーションの業務等について審議するため、学生支援ステーション運営会議（以下「運営会議」という。）を置く。

2 運営会議に関し必要な事項は、別に定める。

(事務)

第6条 学生支援ステーションに関する事務は、関係部局の協力を得て、学生部キャリア支援課で行う。

(プライバシー等の保護)

第7条 学生支援ステーション構成員及び運営会議の関係者は、相談及び支援に関係する者の人権及びプライバシーに十分配慮し、任務遂行上知り得た秘密を他に漏らしてはならない。その任務を退いた後も同様とする。

(雑則)

第8条 この要項に定めるもののほか、学生支援ステーションに関し必要な事項は、運営会議が別に定める。

附 則

- 1 この要項は、平成22年1月15日から施行する。
- 2 大阪大学障害学生支援室に関する内規（平成21年1月14日制定）は廃止する。

編 集 後 記

サブリーダー 太刀掛 俊之准教授

2010年1月に学生支援ステーションを整備し、ようやく1年を過ぎたところですが、学生支援のあるべき姿を検討するひとつの手掛かりとして、これまでの活動をまとめることとなりました。学生支援ステーションの活動は、学生・職員・教員を問わず、また、地域住民の方々などの多くの関係者によって支えられ、それらの支援の結果として、年間報告書についても発刊することが出来ました。これからの学生支援ステーションの活動を学生に広く伝え、充実したものとしていくため、ぜひ皆様の率直なご意見やご感想をお寄せ下さい。なお、次号の発行は2012年5月を予定しています。

Station Report 2010

第1号

平成23年6月発行

編集・発行 大阪大学学生支援ステーション

〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-10

Tel : 06-6850-6651

http://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/student/support_st

印刷 株式会社 遊文舎

〒532-0012 大阪市淀川区木川東4-17-31

Tel : 06-6304-9325

